

令和8年度 課題設定報告会（2年人文社会科学科・理数科学科）

令和8年5月21日（木）6・7限に、2年人文社会科学科・理数科学科78人が課題研究の課題設定報告会を行いました。

人文社会科学科は国語、地歴公民、家庭、英語の各班計14班、理数科学科は物理、化学、生物、地学、数学、情報の各班計12班、合計26班が、課題設定の理由や研究の進め方について、それぞれ発表し、大学の先生からアドバイスをいただきました。

英語3班は、「英語になった日本語由来の借用語について」というテーマで研究を行おうとしています。昨年度アメリカのオレゴン州に留学したメンバーが現地で出会った日本語由来の借用語に関心を持ち、課題を設定しました。まずは、約550語あるという借用語をカテゴリー別、辞書に掲載された年代別などに分類し、そこからさらに考察・分析を深めていきたいと考えています。



英語班の発表の様子



化学班の発表の様子

化学3班は、家庭で廃棄される生活素材（コーヒーかす、お茶がら、みかんの皮など）を有効活用し、アンモニアや酢などの不快臭に最も効果的な消臭の組み合わせを検証し、市販消臭剤の環境負荷やコスト、食品ロスの課題解決（SDGsへの貢献）を目指します。実験では、各素材の単体および組み合わせによる消臭効果を、pH値や気体検知管を用いて測定。即効性・持続性や消臭メカニズムも評価し、最適な条件とその理由を明らかにしたいと考えています。

情報1班は、「高校生が漫画を描くのをためらう心理的な理由を明らかにし、その解決策を考える」というテーマで、高校生が実際に利用できる「漫画創作プラットフォーム」をWeb上で独自に開発・公開し、アクセス数や投稿数、利用頻度などの利用状況を定量的に調査します。また、利用する生徒を「思考のクセ（認知特性や心理的傾向）」に基づいていくつかの属性に分類します。そして、属性ごとに「創作意欲を刺激する手立て（アイデア出しのヒント、励ましのメッセージ、目標設定の提示など）」を考案し、アクセス数や利用頻度にどのような影響を与えるのかを検証します。



情報班の発表の様子



報告会后、助言を受けている様子

発表後の質疑応答では、富山大学・富山県立大学の教員や本校教員から、「先行研究の調査は大事だが、高校生の目線で解き明かせるレベルで研究していくことも大切」、「1年間の期間で研究できるテーマを設定しよう」、「アンケートは自分たちがたてた仮説の答え合わせをする目的でやった方がよい」、など、多くのアドバイスをいただき、とても有意義な会となりました。課題研究は、今後、中間発表会（9月26日）、三校合同発表会（12月19日）、校内発表会（1月20日）と進めていく予定です。